

11

月、私たちの自宅の「かんまん部屋」を会場とする味噌作りも、今年で4回目となりました。今回は親子9組、全員で30人の大勢でした。子どもたちが階段、梯子、縄を使って縄橋無尽に駆け回る中、大人はおしゃべりしながらモチキパキと味噌を仕込んでいきます。かんまん部屋の年中行事、この機会にだけ顔を合わせる人、はじめましての人、いつもお世話になってますの人、メンバーは皆「ごちゃまぜで」、日々の色んな思い出を混ぜ込んでいきます。毎年参加人数が増えるのに、段取りの経験も上がって、作業時間は年々短くなっていきます。じわりじわり、身に着けてきたものは、一体何でしょうか。

12

月には、ひえんは縁で、インドネシアの女の子が、しばらくかんまん部屋に居候しておりました。愛媛大学修士課程への留学生で、語学で無茶な園を取り上げたので、5年前にうちに立ち寄った同胞の男の子からの紹介だけを頼りに、初めてここに辿り着いたのが8月のこと。日本語は拙いけれど、明るくキレイな彼女を応援するべく、4ヶ月体験、インナー調査の段取り、通訳、さらに論文構成へのアドバイスまで、できることは全面的に支援したつもりです。自分たちで言うのも何ですが、彼女が置かれていた状況で、頼ったのが私らであったのは、幸運でしたね。(笑)

かんまん部屋がそれらしくなってきた、そんなことを感じていた年末も、昨年までとは大きく異なります。実は10月から、私は会社勤めを始めたのです。

10

我ら新規就農家族の「踏ん張りどころ」と位置付け、農業を担う運搬の運び手である苗木を育てて経営が安定するまで、10年を目安に勤めることにしました。勤務先は、子育てに力がかかる時期でもあるので、休日や終業時刻の条件などを大いに考慮して探しました。採用されたのは自宅から車で20分のところにある、ヤクルトの販売会社。社員として、いわゆる地域の「ヤクルトおばさん」たちをサポートし、マネージメントする仕事です。得意の英語も使わず、履歴書に書いた私の海外経験とは無関係。家計を支え、未来の「なんち屋」のためと割り切った就職でした。・・・が!! 今では、帰宅して家族に報告しない日はないくらい、人間味あふれる人たちとのやり取りがエピソード満載の日々なのです。さらにそこには、私が国際協力業界で見てきた現場の様子に重なる場所が何となくありません。

「ヤクルトおばさん」たちは、仕事をしたい勤め、やりがいの数多い、でも急げ心が出てくる状況、同僚との関係、家族の事情、皆それぞれ様々で……ああ、まるでインド農村部で実施されているNPOプロジェクトそのまです。もちろん、経済や社会の背景は大きく異なるけれど、私たちの仕事はまさに、その人間らしい働きかけること。国際協力の経験がヤクルトで活かしている、というよりは、今の仕事で、インドや

アフリカで出会った「地域住民」という、当時とは何か特別に感じていた人たちに、とても親近感が持てるようになりました。ヤクルト本社は90周年、自慢の乳酸菌を一軒ずつ、地元の「ヤクルトおばさん」がお届けするクラシックな手法も、旧態依然とあなごれません。

無駄なことは何もない。望んだ通りに縁やチャンスはやってこないけど、流れは来るべき時には来る。その時にどっしり居あぐらするうちに、今を一生懸命やるだけです。仲間と集まってる活動も、ひえんは出会いも、大いに場当たり的ではありますが、私たちはこれまで培ってきた経験や能力を石畳に活かし、育てながらここで生活しています。

ここから10年、きっと想像した以上に、騒がしい未来が、私たちを待っている! (上原 若菜)



〒797-0113

愛媛県西予市明浜町狩浜 3-1404

電話: 0894-89-5050 (FAX 兼用)

web: <http://doratomo.jp/~nancha/>

e-mail: nancha@sheep.dog.cx